

横浜市荏田コミュニティハウス指定管理者選定委員会（第2回） 会議録	
日 時	令和5年8月7日（月） 14時00分～16時45分
開催場所	青葉区役所 407会議室
出席者	笹井委員、中野委員、細谷委員、志村委員、林委員（計5名）
欠席者	なし
開催形態	一部非公開（傍聴者1名）
議 題	1 応募書類及び面接審査（公開） 2 指定候補者の選定（非公開） 3 その他（非公開）
決定事項	横浜市荏田コミュニティハウスの指定候補者に「公益社団法人横浜市民施設協会」を選定し、青葉区長に報告する。
議 事	<p>1 開会 事務局より、委員の定足数の確認を行い、「横浜市青葉区地区センター指定管理者選定委員会運営要綱」第7条第3項の規定により、委員会が成立していることを報告。</p> <p>2 事務局説明 事務局より、次の通り説明があり、委員会の了承を得た。</p> <p>(1) 委員会の流れ 面接審査、休憩、審議・選定の順に行う。</p> <p>(2) 面接審査について プレゼンテーション15分、質疑応答20分とする。</p> <p>(3) 評価について 評価基準項目を5段階で評価する。配点が10点の項目は5段階評価した点数を2倍にして計上する。</p> <p>(4) 最低基準点について 最低基準点は、加減要素を除いた委員点数合計775点の60%、465点とする。</p> <p>3 応募書類及び面接審査（応募者プレゼンテーション・質疑応答）（公開） 欠格事項について、事務局から「該当なし」と報告。 応募者財務状況の確認結果について、財務専門委員から報告。</p> <p>(1) 応募者プレゼンテーション (2) 質疑応答 (委 員) 施設は綺麗な状態で維持されており、窓口での接遇も非常に良い施設だが、施設について地元で知らない人がとても多い。施設の周知を目的に、令和4年にチラシを2,000部作成し、その後5,000部に増やしたということだがどのように配布しているのか。 (応募者) 令和4年より宿自治会に回覧しチラシの配布を始めました。回覧を見て来館された方が多くいらっしやったので、チラシの作成部数を増やすこととし、荏田連合自治会内の全ての自治会に回覧し配布することとしました。 (委 員) 地元の住民に施設を周知することがとても大事だと考えている。他にチラシの配布はどこに行っているのか。 (応募者) 来館された方にチラシを配布しています。</p>

- (委員) 小学校との関わりが気になっている。提案書には小学生の居場所をつくる等の記載があるが、小学校へのチラシの配布等を行っているのか。
- (応募者) 小学校へのチラシの配布は今のところは行っていません。小学校との連携としては、昨年度昆虫展を実施した際に、昆虫展終了後に山内小学校と調整し、展示した昆虫を貸出し1か月間育ててもらおう等の取組を行いました。
- (委員) 提案内容をご説明いただき自主事業を頑張っていることが理解できた。自主事業の担い手は誰になるのか。
- (応募者) 施設の職員となります。
- (委員) 専門外の自主事業の企画はどのように計画しているのか。
- (応募者) 講師等をお呼びして実施しています。
- (委員) 利用者はサービスの受け手のみで担い手にはならないのか。利用者が事業の担い手になることにより、ロコミ等により施設の利用が増えることもあると思うがどうか。
- (応募者) 日頃施設を利用いただいている方がサービスの担い手になることもあります。11月には音楽で施設をご利用いただいている団体による地域の方向けの演奏会を開催すること等も企画しています。
- (委員) 事業数は多いが一つの事業の開催頻度が少ない印象を感じている。自主事業の一覧等を作成し、地域の方に周知等をしているのか。
- (応募者) 現在は行っていない。今後毎月のお知らせ等を行っていきたいと考えています。自治会への回覧等を開始したので、今後回覧の内容を精査しお知らせを行っていきたいと考えています。
- (委員) 施設の存在を知らない人が多い。施設を知っていても施設で何を行っているかわからないので、イベント以外では施設を利用したことがない人も多い。自治会への回覧を行うようになったが、施設が年間を通して何を行っているのかわからない。回覧の内容について、イベント内容の周知だけではなく施設の運営内容が分かるような内容にした方が施設の利用者が増えていくのではないか。荏田連合自治会には小中学校が少ないため学校への依頼ができないので、自治会の回覧を活用し子どもを対象とした情報も盛り込むことも良いのではないか。
- (応募者) 単発のイベントだけではなく施設の運営内容をご理解いただけるようなチラシの作成を工夫していきます。また、施設で勉強を行うこと等による放課後の居場所づくりや親の子育て支援等での施設の活用等にも取り組んでいきたいと考えています。
- (委員) 団体の収支計算書を確認したところ、2期続けて赤字となっている。今後運営を継続していくことができるのか。
- (応募者) コロナ禍で施設の利用者が減ったことやコロナ対策のための経費が増えてしまったこと等が赤字の要因となっています。
- (委員) 令和4年度の管理費の人件費の予算が3,000万円となっているが、実際の決算額は300万円となっている。予算で本部の管理費の人件費を3,000万円と見込んだ理由は何かあるのか。コロナの影響もあると思うが、予算の科目間流用が激しい要因にもなっている。
- (応募者) 人員の出入りがあったこと等によるものです。本部の人間が施設で勤務する事例もあり、このような決算となっています。現在は

人員体制が整理されたので、今後はこのような決算にはならないようにしていきます。

(委員) 利用者の方からの意見徴収はどのように行っているのか。

(応募者) 年1回利用者にアンケートを取りご意見や評価をいただいています。施設が綺麗に保たれている、スタッフの対応が良い等評価はおおむね良好な結果となっています。ご指摘いただいているとおり利用者数が少ないので、今後利用者を増やしていきたいと考えていますが、利用者が増えていく中で様々なご意見が出てくることも想定されます。そうしたご意見にもきちんと対応し、笑顔でお帰りいただける施設にしていきたいと考えています。

4 指定候補者及び次点候補者の選定について（非公開）

(事務局) 評点について、集計したものを委員に提出。

順位	団体名	総合評価
1	公益社団法人 横浜市民施設協会	569 点

(775 満点中、最低基準 465 点)

【指定候補者に関する講評】

当該団体は現指定管理者として令和元年度より荏田コミュニティハウスを運営してきた実績がある。第三者評価や利用者アンケート等でも施設の維持管理や接遇等で高い評価を受けており、今回提案された事業計画も水準以上の運営が期待できる内容であったため運営を任せることができる。

【総評】

地域に根差したコミュニティハウスのため、指定管理者の役割が非常に重要となる。選定にあたっては、青葉区や該当地区の特徴をよく知り、地域の皆さまと協力しながら運営を任せられる団体を選定すべきとの観点から選定を行った。

指定候補者は、青葉区や該当地区の特徴をよく知っており、現在も施設を円滑に運営していることから施設の運営を任せられる団体である。一方、地域での施設の周知度の低さや地域の皆さまと協力して施設を運営していく視点に課題が見られる。今後は地域での施設の認知度を高める取組を積極的に行うとともに、地域に存在する潜在的な協力者からのお役に立ちたいという声をよく聞き共感しながら一緒に事業を実施することにより、低迷している施設の利用が活発となることを期待したい。地域に根差した施設の運営に向け、属人的な運営とならないよう館長だけでなく組織として取り組む体制づくりを期待する。

3 その他（非公開）

講評、総評に基づき、報告書を青葉区長に提出する。

報告書と会議録の確認は委員全員に確認を取り委員長に一任する。

資 料

- 1 次第
- 2 第2回委員会について
- 3 応募書類
- 4 評点表
- 5 報告書（素案）